

明日の空知川を語る会 News【第 1 号】

平成 19 年 10 月 30 日 平成 19 年度 第 1 回 明日の空知川を語る会を開催しました。

＝事務局から＝

第 1 回 明日の空知川を語る会（現地視察）を、以下のとおり開催しました。

- ・日時：平成 19 年 10 月 30 日（火） 午前 10 時～午後 3 時
- ・場所：富良野市生涯学習センター

当日は、委員 12 名、一般参加者 4 名が出席しました。今回は、流域連携をテーマに空知川河畔運動公園で行われている植樹の取り組み（アキグミの小径）の視察および富良野市山部地区の散策路の視察を行った後、富良野市生涯学習センターで意見交換を行いました。意見交換会では、参加者から今回の現地視察の感想や活動の継続、人材・教育、連携等の観点から多くの意見が出され、一般参加者も含め議論していただきました。また、事務局からは、中下流域の活動拠点である「さめぶちたまりバー」における体験学習会の報告、石狩川流域委員会に関する情報提供を行いました。

今回の語る会に先立ち 10 月 25 日に、語る会の委員、H18 ワーキングメンバー、一般の参加者 4 名を含め 15 名の参加を得て「さめぶちたまりバー」において自然観察会を開催しました。自然観察会では新たに整備された散策路沿いに自然観察ガイドが「たまりバー」の動植物について詳細な説明を行い、さらに奈江川では魚類の捕獲を体験しました。その後、赤平市交流センターで自然観察会の感想、今後の整備に関する貴重な意見をいただきました。

現地視察箇所の印象など

- ・実のなる木の植樹は、川辺に来る人が増えることで良いことと感じた。
- ・視察した箇所はそれぞれ地域性があり、また河川敷にゴミもなくきれいに利用されていると感じた。
- ・山部地区は、素材として良い環境であると感じた。



▲第 1 回 明日の空知川を語る会の様子

（敬称略）

明日の空知川を語る会 委員名簿	
氏名	所属
植村 正志	赤平ラブリバー推進協会会長
奥井 正勝	たきかわ農協 赤平支店理事
倉橋 昭夫	森林研究者
黒岩 岳雄	(社)ふらの観光協会会長
平塚 麻利子	自然観察指導員
森下 博之	滝川「川の科学館」館長
山田 昇	砂川観光協会会長
岡部 豊	滝川市 建設部長
金田 芳一	砂川市 建設部 技監
佐々木 之孝	南富良野町 企画課長
里 博美	富良野市 建設水道部長
熊谷 敦	赤平市 建設課長
湯浅 哲也	芦別市 経済建設部長
藤永 聖治	空知支庁 地域振興部主幹
野田 剛三	上川支庁 地域振興部地域政策課長
伊藤 英明	札幌土木現業所 滝川出張所長
三浦 孝利	旭川土木現業所 富良野出張所長
只野 数明	石狩川開発建設部 金山ダム管理所長
秋好 輝美	旭川開発建設部 富良野河川事業所長 副座長
長南 道雄	石狩川開発建設部 滝川河川事務所長 座長
野上 毅	石狩川開発建設部 滝里ダム管理所長

参加者の主な意見

◆ 整備内容、方法に関する意見

- ・河川敷の入口に一般の人が入れるような案内があれば一層人が訪れると思う。同様に広報活動も必要と思う。
- ・山部地区は、良い感じで整備されていると思う。今後、堤防舗装が延長されるとサイクリングやジョギングなどに色々な形で利用されると思う。
- ・ヤナギ見本林のように樹名を記載するのはいいアイデアである。
- ・アキグミの植樹を河川で行うことは大変だと思っていたが、アキグミの小径がある河川敷は自然な感じで良いと感じた。
- ・可能であれば、たまりバーで泳げるようになればよいと思う。
- ・赤平では作られた花壇に植栽をしているが、アキグミの小径は自然な感じで勉強になった。アキグミは、人と鳥が集まるための共通の餌となって、アキグミを植樹したことは成功していると思う。
- ・木として大きくならないグミの木を選定したことは良い発想だと思う。
- ・アキグミの小径での取り組みは、現実的、継続的に活動していることがよい
- ・ヤナギ見本林の見せ方の取り組みは、知識を深めることで文化を創りそれが人を呼び込んでいると感じた。

◆ 人材、連携に関する意見

- ・アキグミの植樹はボランティア活動で行われているのはよいことと感じた。
- ・今後の活動で、富良野の取り組み方を参考として活動を見直していきたい。
- ・アキグミの小径などの取り組みは自分たちの場所で自分たちの手で植栽できたことが良かった。(成功した秘訣のひとつだと思っている)。すなわち、マイフィールド、自分たちの城という意識があった。
- ・これからは、人それぞれのフィールドがあるので空知川の流域(道管理、市町村管理の河川区域)として考えることが大切である。
- ・活動を持続するには、人づくりが大切であり、これからどうするか考えるべきだ。
- ・学生の参加が一過性で終わってしまうのか、何回か実施していると継続して参加してくれるかわからないが、学生の協力が大事になると思っている。
- ・山川草木を育てる集いは学生が授業の一環として手伝ってもらっている。学校行事として参加してくれる場合もある。園芸科の学生に研究テーマ、研究協力として呼びかけることもある。何回か行っていると自然と来るようになる。

- ・森、水、木などの体験学習、環境学習の一環として行ってもらっている。
- ・ボランティア活動は市の広報が大きい。(HP、広報誌による紹介)
- ・この場所は、上流からも下流からも来ても楽しめる場所であると感じた。
- ・10 数年前から市民団体と一緒に植栽、緑化を進めてきた。また、河川区間におけるイベントも含め、色々な人材がいたため、上手くいっている。
- ・水源地を有する当町と下流滝川市との交流も行っている。
- ・補助河川の維持管理は職員の転勤などを考えると NPO・町内会などとの連携して進めることが必要と思っている。
- ・アキグミの取り組みなどは自然とマッチした組み合わせで、市民と連携するにはよい取り組みだと思い、また大事なことだと感じた。
- ・地域でいい場所を考えたり、発見することも大切である。
- ・山岳会など他のネットワークからの応援も大きい。
- ・後継者の関連でイベントが重なる場合は地域の住民だけでは足りない。そのような場合は、学生ボランティアの協力を得るののひとつの手である。
- ・リーダーが育ってきたら、横の連携も出来てくると思う。
- ・マイフィールドを作れば自分たちが楽しめなければならないと思うだろう。
- ・地域に密着したところが出来ればよいと考えている。

◆ その他

- ・さめぶちたまりバーのパンフを見て参加した。
- ・これからの整備や活動は、出来る所から、出来る事から行うことが良いと思う。
- ・安全面を考えると、本川ばかりでなく支川の浅いところなどを利用するのがよい。

次回のお知らせ

第 2 回「明日の空知川を語る会」の開催は平成 20 年の 2 月～3 月を予定しています。

「語る会」は公開で行っておりますので、傍聴を希望される方は下記連絡先までお問い合わせください。

ご意見やお問い合わせは、

『事務局』

石狩川開発建設部 滝川河川事務所 計画課
〒073-1103 樺戸郡新十津川町字中央 89
TEL 0125(76)2211 FAX 0125(76)2181
まで、気軽にお寄せ下さい。